

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

大分工業高等専門学校教務部委員会

(責任者名) 木本 智幸

(役職名) 教務主事

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	全学科に対し、応用基礎レベル相当の科目を展開し、教務部委員会において、単位の履修状況および単位取得状況を確認している。令和6年度の時点では本プログラムに関わるすべての科目を必修としていることから、関係科目の履修率は100%となっている。 対象となる令和4年度以降の入学生については、一般科目の教育課程に必修科目として「情報Ⅰ、Ⅱ」を配置しこれらの科目を中心にプログラムを構成する予定になっている。 一部の科目はが選択科目として設置されるとともに、情報工学科においてはより高度なレベルのプログラムを履修する学生も多くいると予想されるため、本プログラムについては全学生の履修率および卒業時の修得率が60%程度と見込まれる。
学修成果	本校では、人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者を養成することを学校の教育目的に掲げ、在学中に修得する資質や能力を学習・教育目標として示している。それを実現するために、「科学や工学の基礎」の標語のもとに、「科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける」を具体的な目標の1つとして掲げている。学生自身は、アンケートによる授業の振り返りや、学習・教育目標の達成度の自己評価を行う。これらの結果を分析することにより、教員は、学生の授業内容の理解度を把握することができ、教務部委員会においても本教育プログラムの評価・改善に活用する。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本校では、年度末に授業アンケートを実施しており、学生による授業の5段階評価を行っている。令和2年度に開講された科目のうち、本プログラムに関連する9科目は高い評価を受けている。このアンケート結果は教員相互に確認することができ、授業担当者間により次年度以降の授業改善を図る。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本校では、すべての科目において教員が授業を振り返る授業点検シートを作成し、学生は記述式の授業アンケートの回答を行うシステムを導入している。これらにより、各授業における学生の意見も抽出でき、次年度の授業改善や質の向上を図ることができている。 本プログラムの対応科目も例外なくこれらを実施し、学生アンケート等を通じて、次年度学生へのプログラム履修の推奨度を高めていく。特に、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」などの意識調査も重要である。 これらの成果やアンケート等の結果については、本教育プログラムの専用ページで報告すると共に学習意欲の向上へと繋げていく。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムは全て必修科目で構成されており、一般科目「情報Ⅰ・Ⅱ」、全学科共通の専門科目「応用数学Ⅰ」、ならびに各学科の専門科目を学生全員が受講する。 「情報Ⅰ・Ⅱ」「応用数学Ⅰ」では統計処理を専門とする数学科の教員が中心となって科目を担当することにより、学科に関係なく同じ進度で学修する体系が組まれている。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和6年3月時点で教育プログラムの修了者で卒業した学生はいない。令和8年度卒業生以降から進路状況を取りまとめる。 また、学生が就職した会社を対象とした企業アンケートと、本校の卒業生・修了生アンケートを隔年で交互に実施しており、令和8年度以降の本プログラム修了者の活躍状況および企業等の評価として取りまとめる。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本校の特色ある教育取組として、「アグリエンジニアリング教育」と「災害レジリエンスマインド育成教育」と同様に、「数理・データサイエンス・AI教育」プログラムにおいても推進アドバイザー委員会を設置し、委員会または外部評価委員会の産業界からの視点を含めた教育プログラムの内容や手法に対する貴重なご意見をいただく。 また、本校では、学生が就職した会社を対象とした企業アンケートと、卒業生・修了生アンケートを隔年で交互に実施しており、プログラミングなどの情報技術の習得を要望する声をいただいている。 いただいた意見を収集し、教務部委員会においてプログラムの改善に活用する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本校の教育目的達成のため、「科学や工学の基礎」の標語のもとに「科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける」を学習・教育目標の1つとしている。年度当初の教務・教育プログラム説明会では、数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義について教育目的と共に説明し、年度末に学生自身が自己評価する。 また、「情報Ⅱ」「応用数学Ⅰ」では、数理・データサイエンス・AIの基盤には統計学や情報科学が存在することを理解し、現実の課題に対する基本的なデータ活用から、「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を学ぶ。 取り上げる実例等については、授業アンケート、企業アンケートや卒業生アンケートを通じて検討する。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	本プログラムは、一般、全学科共通ならびに各学科の専門の必修科目で構成されている。主に一般科目の教育課程に設置されている必修科目「情報Ⅰ、Ⅱ」を中心にプログラムは構成されており、統計学が専門の教員を中心に科目を担当するので、各学科とも同じ進度で学修するようになる。 一方で、外部評価および企業アンケートの意見を参考に、社会で使われている実データ・実課題、活用されている教材やツールについて検討し、それらの積極的な活用を目指す。さらに、学修成果の可視化、ならびに授業アンケート結果の学生へのフィードバックやFD講演会実施などの研鑽を通じて「分かりやすい」授業へと改善する。